お墓詣

撫水作

特71
565

301170-000-6

特71-565

お墓詣

林田撫水／作，三善和氣／曲

M39.3

CEH-0002

特171
5-65

序

死◎！かばかり悲しきものはなからん、此所新らしきみ佛の石碑の前に伏しては、慕ひて泣ける乙女心を思ひ見よ。

情◎？涙◎？詩◎？

此小冊子少しは益する點もあらん。

—林田撫水—

國會圖書館
52.4.15
圖書館藏書

77W13827

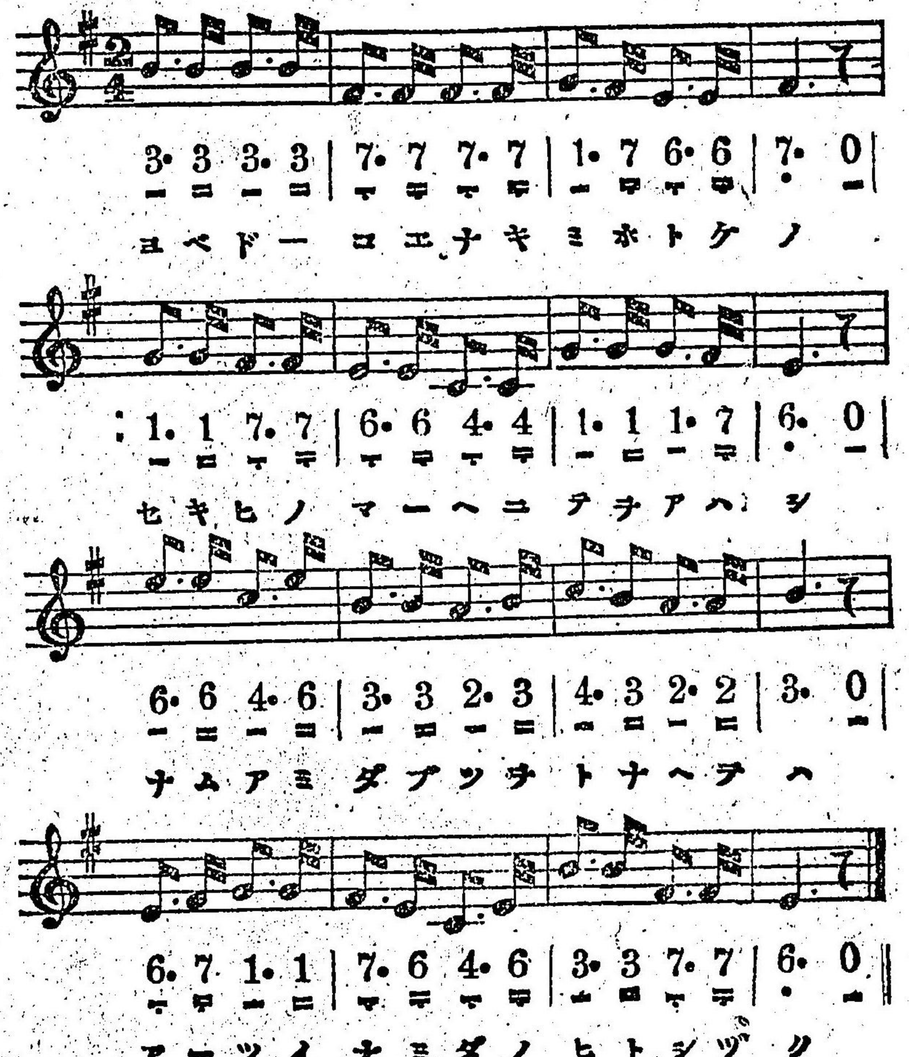
お墓詣

林田撫水

一、呼べど聲なきみ佛の
石碑の前に手を合し
南無阿彌陀佛をとなへては
あつい涙の一しづく

お墓詣

ト調二拍子　　三善和氣作曲



二、二度と生きては歸らぬと
いさみたたれし父なれば
再びお顏を見よーとは
けっして私は思はねど
日に〳〵參る神樣の

三、お蔭もあらばなつかしい
あのお姿が見られよーと
それたのしみに待ちました
劍の林彈丸の雨
もとより死すると覺悟した

五、

あやうい中のことなれば
たすかるはずはなけれども
みくじに出づる吉を見て
もしや運よ―生きのこり
お歸りなさることもやと

六、

指をりかぞへて待ちました
運とはいへどこのよーに
悲しい運が世にあろか
あれや之やを思ひては
あきらめかぬるふしあはせ

七、

敵のうちだす彈丸に
右の胸を　ば　貫かれ
『あっ』といふまに又一つ
左の股をつらぬかれ

八、

そのままおはてなされたる

心のうちやいかなりし
彈丸はどこからとんできた
いかなる敵がうちました

九、

むかしであらばたすきがけ
なぎなたもってなのりいで

必ずかたきはうちますに
よしうたずともうたるに
まつごの水さへあげもせず
お別れ申した此身には
神も佛もあるものか

十一、

わたしは天をもうらみます
天皇陛下の御まへに
いのち捧げていさぎよく
あっぱれ忠義をつくされた
名譽の戰死であるけれど

十二、ああなつかしいしたはしい
思ひつめてはなかなかに
つつむにあまる血の涙
あふれて又も袖ぬらす

十三、ああなつかしいしたはしい

女心の一すぢに
よべど聲なき父上を
したひて今日も墓詣

林田撫水作

紋打唱歌

遺族の母　第七版
愛馬　第六版
お墓　第四版
癒兵　第二版
勇士の涙　第三版
黒髪塚　近刊

眞下飛泉作

凱旋唱歌

大山元帥　第十一版
東郷大將　第十九版
乃木大將　第十七版
第二十聯隊　第十版
第二十八聯隊　第十八版
第九聯隊　第十六版

明治三十九年三月四日印刷
明治三十九年三月六日發行
明治三十九年三月廿七日四版發行

定價　金貳錢

作歌者　林田撫水
作曲者　三善和氣

著作者　京都市御幸町姉小路北入十九番戸　藤井孫六
發行兼印刷者　京都市御幸町姉小路北入八番戸　藤井孫兵衛

發兌　京都市御幸町姉小路北入　五車樓書店（電話五百二十一番）

不許複製

国立国会図書館

眞下飛泉先生作歌

定價一冊金貳錢

學校及家庭
用言文一致
叙事唱歌

武雄は出征して或は戦場の月を眺め或は戦友をいたはりましたが遂に負傷して廣島まで歸り親切な看護をうけてよくなりましたが平和になつて凱旋しました、凱旋して歸つてから村長になるまで、いろ〳〵なことがあるのです、第七篇をごらんなさい。

第一篇 出征 第四十五版
第二篇 露營 第廿七版
第三篇 戰友 第一冊版
第四篇 負傷 第九十版
第五篇 看護 第九十版
第六篇 凱旋 第六冊版

第七篇 ダ金 第五版
第八篇 飯盛 近刊
第九篇 前村 近刊
第十篇 門長 近刊
第十一篇 年會 近刊
第十二篇 村長 近刊

（全國市郡各書店に於て發賣致居候也）